

シンポジウム1

感染制御チーム
—その現状と役割—

座長 小林良三

第59回国立病院総合医学会
(平成17年10月14日 於広島)

IRYO Vol. 61 No. 6 (396-397) 2007

キーワード 感染制御チーム, 感染管理認定制度

メシチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の院内感染が社会問題化するとともに、1996年に「院内感染防止対策加算」が認可され、各病院で感染症への取り組みが具体化し、1999年には感染制御医 (Infection Control Doctor) 認定制度が開始、その後感染管理認定看護師制度、認定臨床微生物検査技師制度、感染管理薬剤師認定制度が整備、各部署で感染制御にかかわれる専門家の育成が行われてきた。また、病院機能評価受審の中でも感染対策への取り組みは重要なポイントとして取り上げられた。

感染制御チーム: Infection Control Team (ICT) は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養管理士、事務職員など、院内の多職種により構成される組織横断的なチームとしての活動が要求される。「ICTに求められる役割」は、院内の各セクションから提起された現実的な問題点に対して、リアルタイムに、できる限りエビデンスに基づいた対処策を講じることである。それを実践していくためには、院内の関連各部署が密接なネットワークを持つことであり、さらに院長直属の実動部隊として責任かつ権限を持っていることも重要となる。「活動内容」として、1) 院内感染アウトブレイクの監視、2) 抗菌薬の適正使用、3) 環境整備と適切な消毒、4) 職員の安全対策 (予防接種や針刺し防止)、5) SSI (手術部位感染)、BSI (四管内留置カテーテル感

染)、VAP (人工呼吸器関連肺炎) などのサーベイランスがあげられる。

九州医療センターでは2001年にメタロβ-ラクタマーゼ産生菌が1例はじめて検出された後、毎年基質拡張型β-ラクタマーゼ (ESBLs) 産生菌、メタロβ-ラクタマーゼ産生菌や多剤耐性緑膿菌の増加が認められた。耐性菌の検出に対しては、細菌検査室から随時臨床現場に情報発信と注意勧告を行ってきたが、耐性菌の増加を抑えることはできなかった。しかし、2006年から第3・4世代セフェム系、カルバペネム系、抗MRSA薬に対し「抗菌薬使用届け出」制度を導入したところ、短期間ではあるが毎月の抗菌薬の総使用数が減少し、耐性菌の検出についても減少傾向が認められている。耐性菌が患者から患者へ、病室から病棟へ、病棟から病院全体へと広がっていくことを意識し、随時問題点を臨床現場にフィードバックすることなど、ICT活動の必要性を痛感している。どの施設も100%の院内感染対策が実施できているとはいえないだろう。個々の施設がお互いを不完全なものであると認識し、協力して地域全体のレベルアップを図っていくこと、各施設が同じ目線で院内感染対策に取り組んでいくことが求められる。今回、「感染制御チーム: その現状と役割」として各部署の取り組みの実情と今後の課題を取りまとめていただいた。それぞれの施設での

国立病院機構九州医療センター 救急部長 ICT

別刷請求先: 小林良三 国立病院機構九州医療センター 救急部長 ICT 〒810-8563 福岡市中央区地行浜1-8-1
(平成18年6月14日受付, 平成18年9月21日受理)

Current Style and Role of Infection Control Team Ryozo Kobayashi

Key Words: Infection Control Team, ICD, ICN, ICMT, ICP

ICTのスタートの参考になれば幸いである。

[参考]

感染制御医 (Infection Control Doctor) 認定制度 (<http://www.icd.umin.jp/>: ICD 制度協議会)

感染管理認定看護師制度 (<http://www.nurse.or.jp/kiyose/kango/gakka05.html>: 社団法人日本看護協会看護教育・研究センター感染管理学科)

認定臨床微生物検査技師制度 (http://www.ncn.ac.jp/kenshu/kenshu_top.html: 国立看護大学研修部: 認定看護師「感染管理コース」)

感染管理薬剤師認定制度 (<http://www.jscm.org/seido/index.html>: 認定臨床微生物検査技師制度協議会) (<http://www.jshp.or.jp/cont/051007.pdf>: 日本病院薬剤師会)

今月の 用語 隣に伝えたい 新たな言葉と概念

[ICT] 英 Infection Control Team 和 感染対策チーム 略 ICT

〈解説〉 ICTは病院などでの感染対策の実働部隊と言える。院内感染(病院感染とも言われる)対策には院内感染の把握, 感染対策の方針の立案と実行, 職員教育, 予防活動が重要であり, 院内の感染対策委員会が担当している場合が多い。しかし感染対策委員会の活動だけでは感染対策は十分ではない場合も少なくない。医療現場では多くのスタッフが無数とも言える手技, 処置を行っており, 感染の伝播を具体的にどう遮断するかは容易ではないのが現状である。感染対策委員会が決定した方針に従いながら, 臨床の現場の実状に応じた具体的な有効策の実践を可能にするのがICTと言える。ICTは感染対策委員会と密に連携をとりながら, 患者の安全と職員の健康を守るために, 組織運営と経済性にも配慮した感染対策活動を実践する実務的組織であり, 主な役割として①感染防止対策の具体的な立案・実行・評価, ②感染サーベイランスの実施, ③ラウンド, ④現場からのコンサルテーション, ⑤職員教育, ⑥感染対策委員会への報告と提言などがあげられる。構成員はICD(Infection Control Doctor), ICN(Infection Control Nurse), 臨床薬剤師, 細菌検査技師, 事務職員などで構成される。最近, 病棟で感染対策を主に担当しICTあるいはICNとの橋渡し役としてリンクナース(LN:Link Nurse)が注目されている。

〈その他〉 専門分野資格制度 近年, 感染対策に関連した資格が職種ごとに制定され, 急速に普及しつつある。

- ・ICD 日本感染症学会, 日本環境感染学会など12学会によって構成されるICD制度協議会が資格を審査し認定する。
- ・ICN(感染管理認定看護師) 日本看護協会が認定看護師制度の一環として認定する。指定教育機関で感染管理専門教育を受け, 審査を受ける。最近, スペシャリストとして専任化を促進する傾向にある。
- ・ICMT(感染制御認定臨床微生物検査技師: Infection Control Microbiological Technologist) 日本臨床微生物学会が, 認定臨床微生物検査技師で実務的に医療施設内の感染制御に積極的に取り組み, 必要条件を満たした者を認定する。
- ・ICPh(感染制御専門薬剤師) 日本病院薬剤師会による認定制度。 (白阪琢磨)

参考文献

- 1) 小林寛伊, 吉倉廣, 荒川宣親: 厚生労働省医薬局安全対策課編集協力「エビデンスに基づいた感染制御」, メディカルフレンド社, 2002
- 2) 倉辻忠俊, 吉倉廣, 宮崎久義, 切替照雄, 山西文子, 平出朝子(編集) 院内感染防止手順—すぐ実践できる—第2版 メディカルフレンド社 2006
- 3) 国立病院機構大阪医療センター 感染対策委員会, ICHG研究会(編集) 新・院内感染予防対策ハンドブック 南江堂 2006